令和8年10月28日

令和８年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立　豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和８年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和8年4月23日(木)

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問調査）

中学校　第３学年（国語，数学，英語，生徒質問調査）

4　本校の参加状況

①　国語　１２９　　人

②　算数　１２９　　人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

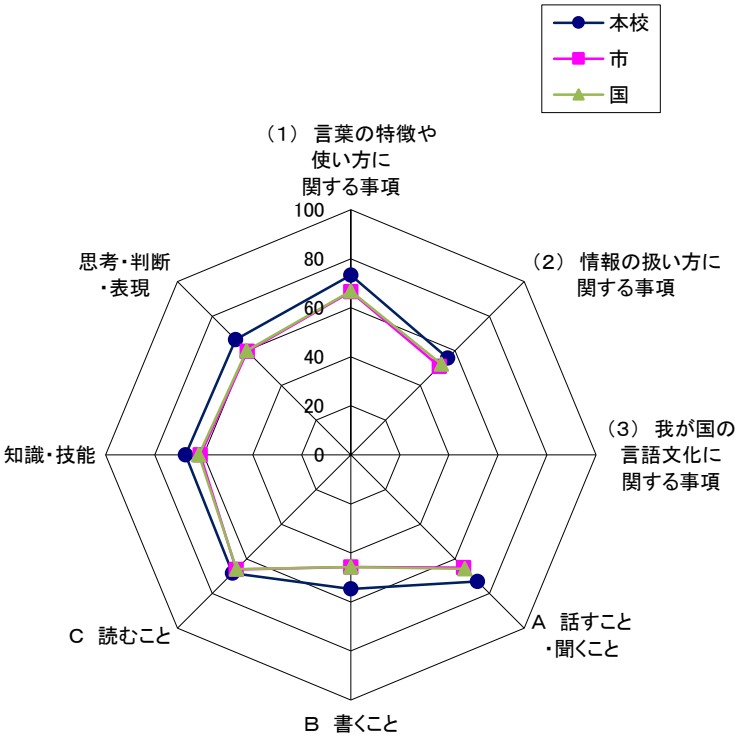
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	73.3	66.5	66.8
	（2） 情報の扱い方に関する事項	55.8	51.1	52.3
	（3） 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	73.1	65.0	65.8
	B 書くこと	54.7	45.7	45.7
	C 読むこと	68.2	66.1	65.9
観点	知識・技能	67.4	61.4	62.0
	思考・判断・表現	66.4	59.8	60.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

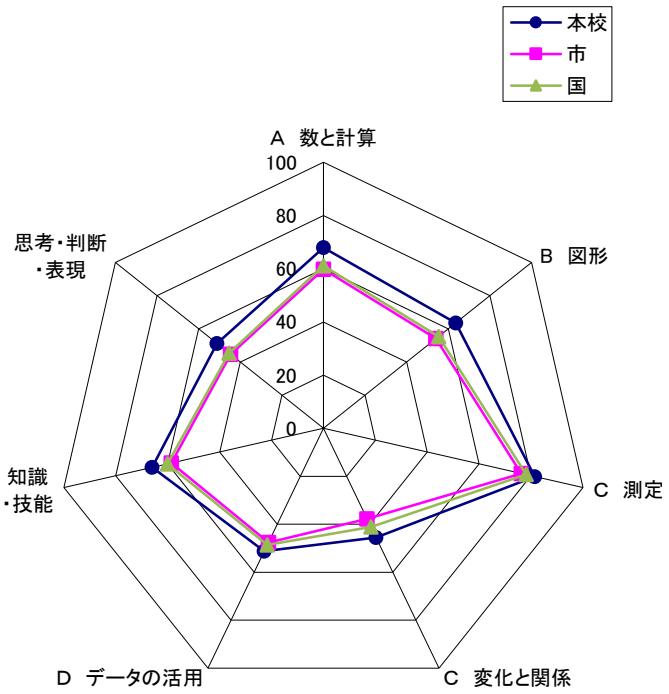
	本年度の状況	今後の指導の重点
○良好な状況が見られるもの	・「資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」問題では，全国の平均を11.9ポイント上回っている。資料を活用し発表する活動を教科横断的に重ねてきた成果だと思われる。 ・「比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる」問題では，全国の平均を12.3ポイント上回っている。相手意識をもった話合いや発表などの活動を多く取り入れた成果だと思われる。	・今後も情報を整理したり，図や表に表したりする場を設定して資料を適切に活用できるような活動を継続的に進めていく。 ・話合い活動を通して，お互いの意見を聞き入れ合い，まとめていく経験を重ねられるよう，意図的にそのような場面を設定していく。
●課題が見られるもの	・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題では，全国の平均を上回っているものの，正答率が50%を下回る問題もあるため，定着を図る必要がある。	・新出漢字については，漢字の意味やつくり，読みなどを丁寧に確認し小テストで定着を図る。 ・既習の漢字については，日常生活や様々な授業の中の書く活動において使用するように促進し定着を図る。

宇都宮市立豊郷中央小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と計算	67.9	59.8	61.1
	B　図形	63.6	54.1	55.3
	C　測定	81.4	76.2	78.1
	C　変化と関係	45.5	37.7	41.1
	D　データの活用	51.2	47.6	48.6
観点	知識・技能	66.0	58.6	60.1
	思考・判断・表現	51.2	44.6	45.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

	本年度の状況	今後の指導の重点
○良好な状況が見られるもの	・「小数が整数と同じ十進法取り記数法の仕組みで表されていることを理解し，条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる」問題では，正答率が96.9%と高い結果となった。 ・「単位分数の個数に着目し，数直線線上の1を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる」問題では，全国の平均を16.4ポイント上回っている。整数，小数及び分数の意味や表し方，性質などの基礎的な知識の定着が図ってきた成果だと思われる。	・分数の大きさや整数や小数との関係性についての理解が高いので，引き続き，整数・小数・分数それぞれの関係性を考えさせる授業を展開していく。
●課題が見られるもの	・「二次元の表から，条件に合う数を読み取る」問題では，全国の平均を上回るものの，正答率は19.4%であった。 ・「帯グラフの特徴と用い方を理解し，およその割合を読み取ることができるかどうかをみる」問題では，全国の平均を1.3ポイント下回っており，無回答率も7.8%と高い割合であった。	・それぞれの数の関係性を，言葉で説明するだけでなく，数直線を活用するなど，児童が視覚的に理解できるように指導を進めていく。 ・表やグラフを読み取るときには，丁寧に読み取り，何についてかかれているかをきちんと理解していくことが大切であるので，その表やグラフにメモを書かせるなどの工夫をしていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「国語（算数）の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つ」という質問では，肯定的回答の割合がそれぞれ98.5%，97.8%という高い結果となった。学習の必要性を感じ，前向きに取り組もうという意識が感じられる。
○「英語の勉強は好きですか」という質問では，全国の平均と比べて11.8ポイント高い78.5%の肯定的回答の割合が見られた。英語に慣れ親しむことを今後も大切にしつつ，英語によるコミュニ―ケーションの楽しさを感じられる授業を心掛けていきたい。
○「あなたの学級では，学校生活をよりよくするために学級会で話合い互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問では，肯定的回答の割合が全国の平均より8.1ポイント高い89.6%であった。「自分たちが学校・学級をつくる」という学校全体の目標に対して，児童自身が主体的に行動しようとする意識が感じられる。
○「友達関係に満足していますか」という質問では，肯定的回答の割合が91.1%となった。高学年になり，人間関係づくりに悩みをもちながらも友達と円滑に関われていることが伺える。
●「国語（算数）の授業の内容はよく分かりますか」という質問では，肯定的回答の割合が「国語」88.1%「算数」79.2%となった。理解できている児童がおおむね見られるが，特に算数については理解することに難しさを感じている児童も見られる。本校では高学年において算数の習熟度別学習も取り入れているが，引き続き個に応じた指導に取り組み，児童にとって分かりやすい授業を展開していきたい。
●「あなたの学級では，人とちがう意見を言っても否定されないと思いますか」という質問では，肯定的割合が70.4%で，全国の平均よりも0.8%低く，県の平均よりも2.9%低い。上記にあるように友達関係には一定の満足感はあるものの，相手のことをよく考えずに否定してしまう言動も見られる。何かトラブルがあった際には，その都度どのような言動がよかったか，児童と共に考え次につながる指導をしていきたい。